

令和4年第4回（4月）佐渡市議会臨時会会議録（第1号）

令和4年4月27日（水曜日）

議事日程（第1号）

令和4年4月27日（水）午前10時00分開会・開議

- 第 1 会議録署名議員の指名
- 第 2 会期の決定
- 第 3 議案第48号

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（21名）

1番	平田和太龍君	2番	山本健二君
3番	林純一君	4番	佐藤定君
5番	中川健二君	6番	後藤勇典君
7番	北啓君	8番	室岡啓史君
9番	広瀬大海君	10番	上杉育子君
11番	稲辺茂樹君	12番	山田伸之君
13番	荒井眞理君	14番	駒形信雄君
15番	山本卓君	16番	金田淳一君
17番	中村良夫君	18番	中川直美君
19番	近藤和義君	20番	坂下善英君
21番	佐藤孝君		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により出席した者

市長	渡辺竜五君	副市長	伊貝秀一君
教育長	新発田靖君	総合政策監	日坂仁君
総務部長	中川宏君	企画財政長	猪股雄司君
社会福祉部長	吉川明君	地域振興長	石田友紀君
観光振興部長	岩崎洋昭君	教育次長	磯部伸浩君

企画財政部長
副部長
(兼財政課長)

平 山 栄 祐 君

事務局職員出席者

事務局長

中 川 雅 史 君

事務局次長

齋 藤 壮 一 君

議事調査係

数 馬 慎 司 君

議事調査係

余 湖 巳 和 寿 君

午前10時00分 開会・開議

- 議長（佐藤 孝君） おはようございます。ただいまの出席議員数は21名であります。定足数に達しておりますので、これより令和4年第4回（4月）佐渡市議会臨時会を開会いたします。
これより本日の会議を開きます。
-

日程第1 会議録署名議員の指名

- 議長（佐藤 孝君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
今臨時会の会議録署名議員は、2番、山本健二君及び4番、佐藤定君を指名いたします。
-

日程第2 会期の決定

- 議長（佐藤 孝君） 日程第2、会期の決定を議題といたします。
それでは、今臨時会の会期及び会期日程について、議会運営委員長の報告を求めます。
議会運営委員長、稲辺茂樹君。

〔議会運営委員長 稲辺茂樹君登壇〕

- 議会運営委員長（稲辺茂樹君） おはようございます。去る4月22日に議会運営委員会を開催し、今臨時会の会期及び会期日程について協議しましたので、御報告申し上げます。

会期につきましては、本日から明日28日までの2日間とします。

会期日程は、お手元に配付した会期日程表を御覧ください。本日この後、議案の上程、質疑、常任委員会への付託を行い、休憩し、常任委員会の審査となります。常任委員会の審査が終了次第、委員会審査報告書を配付し、委員長質疑等の受付の後、議会運営委員会を開催いたします。これまでが本日の予定であります。

明日28日は、委員長報告、採決等を行い、その後日程を追加し、正副議長の選挙を行います。続いて、新議長の下、議席の一部変更、発議案による特別委員会の設置、各委員会の委員の指名を行った後、一旦休憩し、各派代表者会議及び議会運営委員会を開催します。その後再開後、委員会の正副委員長の互選結果を報告し、最後に後期高齢者医療広域連合議員の選挙及び監査委員の選任を行います。

報告は以上であります。

- 議長（佐藤 孝君） ただいまの報告に対する質疑を許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（佐藤 孝君） 質疑なしと認めます。

議会運営委員長の報告に対する質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいまの議会運営委員会の報告のとおり、今臨時会の会期は本日から明日28日までの2日間にいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（佐藤 孝君） 異議なしと認めます。

よって、今臨時会の会期は、本日から明日28日までの2日間に決定いたしました。

日程第3 議案第48号

○議長（佐藤 孝君） 日程第3、議案第48号 令和4年度佐渡市一般会計補正予算（第1号）についてを議題といたします。

市長から提案理由の説明を求めます。

市長、渡辺竜五君。

〔市長 渡辺竜五君登壇〕

○市長（渡辺竜五君） おはようございます。それでは、議案第48号 令和4年度佐渡市一般会計補正予算（第1号）について御説明させていただきます。

本予算案は、歳入歳出にそれぞれ4億3,541万1,000円を追加するものです。補正内容は、世界遺産登録を見据えた情報発信と観光誘客に要する経費を計上するほか、新型コロナウイルス感染症対策として、感染拡大防止対策、生活支援、産業振興と雇用促進及び地域経済の活性化等への対応に要する経費を計上し、歳入では、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等の国庫支出金、繰入金及び諸収入を増額計上するものです。

よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（佐藤 孝君） これより議案第48号 令和4年度佐渡市一般会計補正予算（第1号）についての質疑を許します。

本案の質疑は歳入歳出別とし、歳出については複数の款に分けて行います。

それでは、議案第48号 令和4年度佐渡市一般会計補正予算（第1号）についての歳入に関する質疑を許します。質疑はありませんか。

中川直美君。

○18番（中川直美君） 1つは、4月の終わりではありますが、実質4月すぐにこの補正予算を組んだということになるのだと思うのですよ、18日に我々に出ましたから。そういう意味で、なおかつ4億4,000万円近い大きな予算ということなのだけれども、総計予算主義の原則からして見たときに、事情の変更云々ということはもちろん分かるのですが、事実上これ当初予算ではないかというふうに私は感じるのですが、その辺はどういう事情ですか。

○議長（佐藤 孝君） 渡辺市長。

○市長（渡辺竜五君） 基本的に当初予算に間に合わせるようにというのが一つの方針だと思いますが、当初予算のスケジュール的には1月中旬ぐらいまでが基本的な予算編成のぎりぎりのスケジュールになります。今回御提案した経済対策、そして世界遺産の情報発信、これについてはそのときから様々な議論を重ねておりましたが、まず1つ、世界遺産につきましては、議員の皆様もう御承知だというふうに思っておりますが、様々な経緯の中、より一層の国内発信が必要になったというふうに判断がされたこと。そして、もう一つ、経済対策につきましては、今ウクライナの情勢を踏まえながら、適時今までの効果を見ながら補正予算、そして当初予算で用意してきたところでございますが、財源約1億円の地方創生臨時交付金を使いながら早急な物価高対策等が必要であるというところで1月中旬以降に判断したということで、3月定例会にもそういう形で御説明を申し上げたところでございますので、当初予算がベストではございますが、1月以降の大幅な変動に関する対策ということで御理解いただきたいというふうに考えております。

○議長（佐藤 孝君） 中川直美君。

○18番（中川直美君） あくまでも原則論を私は言っているのですが、国の予備費の使い方も含めて財政民主主義が今崩れているのではないかということが言われているので聞くのだけれども、そうすると私先ほど言いましたが、事情の変更は当然あると思うのです、事情の変更、ウクライナの問題。だけれども、そうするとここに載っているものが新年度予算の総額というふうに捉えていいのかなというふうに思うのですが、もちろん事情の変更で、今日の新聞にも出ていましたが、国の指定を受けたので、この予算が来たのでこれやらなければならないというのはもちろんあるのだけれども、この辺はどうですか。これでほぼ今年度の見通しは大体出ているというふうに捉えてよろしいですか。

○議長（佐藤 孝君） 渡辺市長。

○市長（渡辺竜五君） 当初予算は、先ほど申し上げたように、1月中旬までに基本的に大きくしっかりとした数値等が見込めるもの、効果が見込めるものというふうに私自身は判断しておるところでございます。現在、議員から御指摘のとおり、国からの交付金、また経済対策等五月雨的に出ている状況もあるわけでございます。通常であれば当然当初予算というのが一つの大きな柱になり、定期的にその後年3回開かれる議会で補正を計上していくというのが流れであることは間違いのないというふうに私も認識はしておりますが、現在の状況であればやはりできるだけ早く対策を取るということも重要であるという観点から、これが全ての当初予算というよりも、この後また経済対策等も踏まえて出てくる想定でございますので、そこも含めながらできるだけ市民の皆様には早急に支援が行き届くような仕組みで議会とも協議をしてみたいと私自身は考えているところでございます。

○議長（佐藤 孝君） 中川直美君。

○18番（中川直美君） 企画財政部長にお尋ねをしておきますが、私がなぜこれを言うかということ、職員の倫理でもないけれども、行政の仕組みの原則はやっぱり原則として踏まえた上でやるということが必要だから聞いているのですが、総計予算主義の原則あるいは単一予算原則の関係でいうとそのルールはしっかり守られていますか。

○議長（佐藤 孝君） 猪股企画財政部長。

○企画財政部長（猪股雄司君） 御説明いたします。

今ほど質疑のありました件に関しまして、私どものほうとしても単一予算原則等を守ってしっかり予算を計上させていただきたいと思っております。ただ、今ほど市長のほうからも御説明させていただきましたが、事情の変化、そういったものも含めた中で補正のほうを組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（佐藤 孝君） 荒井眞理さん。

○13番（荒井眞理君） 大きい枠でお聞きしたいのですけれども、この間ロシアで開かれる予定だった世界遺産委員会が無期延期になって、それは佐渡の今回の審査には直接関係があるものではないということは承知していますが、この事態に及んで一体佐渡のこれからの登録に何か影響があるかもしれないとか、スケジュールがどう変わるかもしれないとか、国からそのスケジュールについて何か情報があるのであればその大枠をまず先に知らせていただきたいなど。何か私たちがやるのが空振りになってはいけないと、そういう思いで、どういう情報を佐渡市が持っているらして、今回この上程する前にこの事態は分かっている

なかったのかと思いますので、念のために国からの情報はどのようなものを持っていらしてこの枠でいくのか、お考えを聞かせてください。

○議長（佐藤 孝君） 荒井真理さんに申し上げますが、予算の質疑ですので、ウクライナとかロシアの情勢ということについての質疑は受けられません。予算に関してきちんと質疑をしていただきたいというふうに思います。

荒井真理さん。

○13番（荒井真理君） 質疑の仕方が悪くて申し訳ありません。この間、世界遺産を推進するための世界遺産委員会、ユネスコの中のスケジュールが変わったという情勢を踏まえて、この佐渡金山の審査にも、これは来年度の話ですけれども、何か影響があるのか、国からのスケジュール変更があるのか。それに鑑みて、いろいろ私たちがあまり今スケジュールどおりにいくと考えていいかどうか分からない事態があったら、今回のことを考えるに当たり、予算を考えるに当たり加味して考える必要があるのかなということ、国からの情報とかあればそれを教えていただきたいということです。なければならないで構いません。

○議長（佐藤 孝君） 渡辺市長。

○市長（渡辺竜五君） 国のこのやり方、そしてユネスコのやり方、そして世界遺産委員会のことの質疑がありますが、我々やっぱりイコモスの対応が大切であるということと、世界遺産の価値を国内に知ってもらうということが大切でございますので、我々世界遺産委員会がどういうふうになっていくとかいうのは一切関与もしておりませんし、私自身は委員会がいつ行われるかということにこれから注視するのみでございます。あくまでも今回の予算はそういうことではなくて、やはりしっかりと世界遺産を日本に知っていただく、そして世界遺産の関係を国に知っていただく、この不断の努力をしっかりとし続けなければいけないということでございますので、早急をお願いをしたいということで今回予算上程をしたものでございます。世界遺産委員会とはこの予算は全く関係ないというふうに私自身は考えております。

○議長（佐藤 孝君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（佐藤 孝君） 質疑なしと認めます。

議案第48号についての歳入に関する質疑を終結いたします。

次に、議案第48号についての歳出に関する質疑に入ります。

歳出については、2つに分けて質疑を受けます。

2款総務費及び3款民生費についての質疑を許します。質疑はありませんか。

中川直美君。

○18番（中川直美君） 新型コロナウイルス感染者生活支援事業の消耗品の関係です。いわゆる食料の配達のことなのだろうと思うのです。この間、結構佐渡も多くて、県の制度とのすみ分けというのがもともと私はあるというふうに指摘をしているのですが、その辺の状況はどうで、どういう見込みなのか。市民の中には家族の一部が感染し、なかなか外に出れない云々みたいなのも含めて、どうしたらいいのだみたいな声もありますから、ぜひ市長のアナウンスのときに一言言ってくれるといいかなみたいな声もあるのだけれども、どういう状況でこういうふうに組んだのかお尋ねをしたいというふうに思います。

民生費ですから、もう一つは13ページの歌代の里の関係です。再公募するということなのですが、新聞

報道によると単純に補助金が3億5,000万円上乗せされたというふうにはしか読めない。先ほどから話があるように、これ事情の変更で応募者がいなかったのは分かるのだけれども、事情の変更で建築資材やいろいろなものが上がって、最低限のものが単純に3億5,000万円値上がりしたというふうに捉えればいいのだというふうに思うのですが、どうなのか。これ8月いっぱいぐらいまでに公募ということなのですが、社会福祉部長の新聞紙上のコメントによりますと、なくてはならない施設だということで、8月に公募がなかった場合はどのようにするのかお答え願いたい。

○議長（佐藤 孝君） 中川総務部長。

○総務部長（中川 宏君） それでは、コロナの感染者の生活支援につきまして御説明をさせていただきます。

4月に入りまして島内でも感染者数が非常に増えたという形の中で、この生活支援を御希望される方が大変増えました。現在において、感染者に対する支給率としまして50%を超える形で依頼が来ております。前年度の1月から3月までの全体の状態では30%前後を推移しておったものが、4月1か月で50%というように急激に増えておる形でございますので、県との関係でございますが、県のほうでは基本的に感染されて自宅待機になりますけれども、実際に濃厚接触者等についての外出規制等がないものですから、調達ができる場合は対象にならないというようなことでございますが、一応市の場合につきましては希望があれば支給をするというような形でありますので、県というよりは市のほうに依頼が来ておるといふところが大きいかと思っております。その状況を踏まえまして、今若干感染者数につきましては減ってきておるような状況でございますけれども、1か月で大分大きい数字が動きましたので、そのことも踏まえまして今後の補正予算として計上させていただいたのが現状でございます。

○議長（佐藤 孝君） 吉川社会福祉部長。

○社会福祉部長（吉川 明君） 御説明します。

まず、歌代の里の公募の予算の増額でございますが、今回補正予算でお願いしている5,000万円につきましては土地造成費の部分でございます。コロナでの価格高騰、あと排水処理などの増嵩が見込まれるということで5,000万円の補正を組ませていただいております。そのほかに債務負担行為としまして、建設費本体のほうの補助金の増額としまして2億9,587万5,000円、こちらのほうは債務負担行為の変更をして今回計上させていただいております。合計しまして3億4,587万5,000円の増額でございます。

再公募の件につきましては、現在こちらの予算を議決いただいた後、5月から8月のスケジュールで再公募したいという考え方でおります。現在も複数の事業者のほうから御相談は受けている状況でございますので、今回は事業者のほうが出るのではないかとこのように想定しておりますが、仮に出なかった場合も想定しまして、民設民営などの運営方針を新たに並行しながら検討していきたいというふうに考えております。

○議長（佐藤 孝君） 中川直美君。

○18番（中川直美君） 前段のコロナの食料支援の関係ですが、以前島外から来た人がかかったら、その何か宿泊、移動が禁止されたみたいなのもあったかと思うのですが、今コロナの基準というか、何かちょっと分かるような分からないように我々なっているのだけれども、そういったものは当初予算にあったのか、これもそれとの関連はどうか教えていただきたいのが1点で、特別養護老人ホームの関係ですが、結

果としていうと何のことはない、前と同じ条件だと、建築資材や云々が上がったというだけなのだけれども、やっぱり前回のことを踏まえるともうちょっと何か民間にやってもらうというものならば違った形での募集ができたのではないかと思いますので、その辺は大丈夫ですか。

○議長（佐藤 孝君） 岩崎観光振興部長。

○観光振興部長（岩崎洋昭君） コロナ関係につきましては、当初予算、観光関係の予算ということで計上をさせていただいているところでございます。

○議長（佐藤 孝君） 吉川社会福祉部長。

○社会福祉部長（吉川 明君） 今回の再公募につきましては、補助金の増額のみの変更で再公募かけさせていただいております。1回目の公募の聞き取りの中でも、やはり建設費の高騰、ここが問題だということを確認しておりますので、今回は補助金の増額のみの変更とさせていただいております。

○議長（佐藤 孝君） 荒井真理さん。

○13番（荒井真理君） このコロナ対策の支出なのですけれども、子育て・暮らし応援事業ということでの中に私もっとどん詰まり、障害福祉事業も対象になるのかなと思っていたのですが、それが入っていないのはなぜでしょうか。

○議長（佐藤 孝君） 吉川社会福祉部長。

○社会福祉部長（吉川 明君） 御説明します。

今回の子育て・暮らし応援事業の対象世帯につきましては、生活保護世帯、高齢者のみ世帯、障害者を含む世帯、18歳以下の子供を含む世帯ということで、障害者のほうも対象とさせていただいております。

○議長（佐藤 孝君） 荒井真理さん。

○13番（荒井真理君） 委員会でやりますけれども、これ全部対象を包含して漏れないのか、これちょっとなぜこれが高齢福祉課の対象で計上されているのか。私は高齢者の障害者の世帯のかなと思ったのですが、そういうわけではなくて障害者のいらっしゃる全世帯を包含しているということでしょうか。

○議長（佐藤 孝君） 吉川社会福祉部長。

○社会福祉部長（吉川 明君） 御説明します。

予算のほうは社会福祉費のほうに計上させていただいて、所管する課が高齢福祉課ということで、令和4年度から部制をしいておりますので、部内で業務の調整の結果、高齢福祉課が所管するというので、障害者につきましては全て含んでおります。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○社会福祉部長（吉川 明君） 申し訳ありません。あくまでも非課税世帯、先ほど言いましたように、生活保護、高齢者、障害者、18歳以下の非課税世帯を全て対象にしたものでございます。

○議長（佐藤 孝君） 金田淳一君。

○16番（金田淳一君） 11ページの出会いの場作り応援事業について伺います。

今まで婚活支援、結婚支援をしなければならぬと私も言いましたし、議会からも提言があったかと思いますが、市長は今までいろいろなイベントをやってみて成果が上がっていないので、やってもということでしたが、今回ようやく新たなステップに踏み込んだという形だと思います。それで、今回は新型コロナに関してなかなか出会いがつかれないということで説明がありますけれども、今までのやり方

を変えて募集をするのだと思うのですけれども、どのような手法を佐渡市として委託業者に求めるのか、
どういうふうな考え方なのか、まずそこをお聞かせください。

○議長（佐藤 孝君） 石田地域振興部長。

○地域振興部長（石田友紀君） 御説明申し上げます。

今回の出会いの場作り応援事業の新しい部分ですけれども、基本的に今までそういう場に出たことがないという方も結構いらっしゃると思いますので、そういう方々に対して、例えば身だしなみはこうですか、あるいはこういう場合はこういうエスコートをしましょうというような形でのレクチャーも行うというところが1点。

それからあと、新型コロナの状況下ということなので、オンラインでのマッチング。先方は遠隔地において、こちらはパソコンの前にいるというような形もできないかというところを検討している次第でございます。

○議長（佐藤 孝君） 金田純一君。

○16番（金田淳一君） ぜひ何らかの成果が出ることを期待するわけですけれども、今までの手法ですとなかなかイベント等を企画しても参加してくれる人がいなくて、無理やり集まっていたいて何とか消化したというふうな感じの事業もなくはなかったので、島内にたくさん独身の方々は男女ともいらっしゃいますけれども、動機づけみたいなことがとても大事になると思いますが、そのことも含めてこの事業について全体的にどういうふうなお考えなのか説明してください。

○議長（佐藤 孝君） 渡辺市長。

○市長（渡辺竜五君） 議員から御指摘のとおり、まさしく今までですと市が中心になってイベントをして、なかなか参加者がいないことから、例えば市の職員であるとかをお願いして、基本的には成果が出なかったというのが今まで。イベントをやろうが、お見合いをやろうが、基本的にこの流れだったというふうに思っています。今回大きな枠組みとしては、基本的に市が、行政がというよりもやはり民間で多くの情報を持っている方々がまず人と人が出会う形に取り組んでいくというところが1つ大きな仕組みでございます。詳細は今地域振興部長から申し上げたとおり、男性への様々なアドバイザーみたいなところを含めて、また委託業者が持っているネットワーク、そういうものを併せながら、単なるイベントではなくて個別でお会いするようなケースもあると思いますし、様々な可能性を今回企業のほうと議論をしながら進めていくというところが今回提案があったものだというふうに認識しているところでございます。

○議長（佐藤 孝君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（佐藤 孝君） 質疑なしと認めます。

2 款総務費及び3 款民生費についての質疑を終結いたします。

次に、7 款商工費及び10 款教育費についての質疑を許します。質疑はありませんか。

中川直美君。

○18番（中川直美君） それでは、ページ数では15ページですが、先ほど歳入でも聞きましたけれども、戦略的観光誘客促進事業、いわゆる修学旅行で貸切りバスが不足するというの、これ毎年のことだと私は思っていたわけ。だから、その意味でいうとこれは事情の変更ではなくて、本来毎年私やっているものだ

と思ったのだけれども、これはどういう事情の変更でこういうのが出てきたのかということをお教えください。

2点目は、その上にある企業誘致・スタートアップ支援事業、1,000万円までということで補助率が85%と。人材育成、再生可能エネルギー、福祉、介護、医療、子育てについては85%で1,000万円、それ以外の事業については75%ということで、非常に補助制度としては高い補助率でいいものだというふうに私は思うのですが、ただ概要説明の中でいうとサテライトオフィス等に進出している企業と地元企業という枠組みになっているのだけれども、例えば前段で言った福祉、介護、医療なんかでいうと、地元の方だけでも何か、「ああ、こんなに補助率いいのならこういうことやってみようではないか」と、事業費は大きくなくてもみたいなものもあるのかというふうに思うのですが、これはもともとどのように、当てがあるものなのかどうなのか。

同じように17ページのスポーツの推進、これ違ったかな。イベント関係でまた出会いが云々みたいだったと思うのだけれども、これもやっぱり当てがあるのかどうなのかということをお教えください。

○議長（佐藤 孝君） 岩崎観光振興部長。

○観光振興部長（岩崎洋昭君） 御説明いたします。

まず、貸切りバス不足対策でございますが、こちらにつきましては当初予算でも計上をさせていただきました。その台数につきましては100台ということで見込んでおったのですが、やはりコロナの感染状況も落ち着いてきたということもございまして、予約の状況が増えているということでございます。現時点で190台ほど見込めるような状況でございましたので、当初の倍の200台を見込みまして今回増額させていただいたところでございます。

それから、スポーツ推進事業、こちらにつきましてはロングライドの実施に向けての経費でございます。感染防止対策の徹底ということで参加者とボランティアも含めまして抗原検査の実施をさせていただき、イベントを実施するというための負担金の増額でございます。

以上でございます。

○議長（佐藤 孝君） 石田地域振興部長。

○地域振興部長（石田友紀君） 企業誘致・スタートアップ支援事業のほうですけれども、当てということですが、空き家対策あるいはDX人材の育成、障害、保育、そういった部分に関して幾つかの企業から相談を持ちかけられていると伺っております。

○議長（佐藤 孝君） 中川直美君。

○18番（中川直美君） もちろんこの事業提案みたいなのが個人や企業からあって、例えば広く全体誰でも取り組めるような補助制度をつくってやってもらうということも私は必要なことだと思うのですが、そうするとそもそも島内オフィスに進出した企業と地元企業でやってみたいという方が何社かあるというふうに考えればよろしいのですね。それを普遍的な制度というか、これだけではなくて組んでやるのだったら誰でもできる制度としてやっているということなのだろうと思うのですが、何件ぐらい予定しているのですか、この予算。

○議長（佐藤 孝君） 渡辺市長。

○市長（渡辺竜五君） ちょっと状況を御説明させていただきます。

企業誘致・スタートアップ支援事業につきましてはそもそも国のデジタル田園都市国家構想推進交付金を使った形で、8件ほど大きく提案をいただいています。それで、デジタル田園都市国家構想推進交付金自体が誘致企業と地元の企業が島内というか、市町村で大きな企業といいますか、新しい事業展開、地域の活力、活性化を図る場合に支援になるというスキームでございます。これについて応募を予定しておったのですが、あまりの人気に枠がないということで、私自身も実は内閣府のほうに行きまして、もうあと2億円ということでいろいろなお話をさせていただきましたが、やはり予算がないということでございました。佐渡市のものは非常にいい案なので、来年度以降もぜひ事業として考えてほしいということで国と協議をしておったところでございます。ただ、今民間企業からいただいているスキームが非常に効果が高いものが出そうだというふうに私自身も判断しておりまして、その中で、額は少量でございます。国のものよりかなり少なくなっておりますが、ソフト事業を中心にして来年度の田園都市交付金につなげる意味で、まずスタートアップが同じようなスキームでできないかというところから考えたのがこの市の事業であるということでございます。来年以降は、今8件ほど私のところにやりたいということが来ておるのでございまして、そこを国と協議をしながらどれが対象になるのかということを含めて大きなものを進めていきたいというふうに考えております。その中で、やはりハード整備等が非常にコストが大きくなるということで、今回はどちらかというソフト事業等をできるような形があれば市として支援をしていきたいということで、交付率等につきましてもその国の事業の前段事業として考えておりますので、ルール等もできるだけ合わせながら事業費を小さくするというので、一旦1年早くまず進めてみたい、効果を見ていきたいというふうに考えておるところで新たな事業化を加えさせていただいたということでございまして。そういう点でこの辺も補正になったということは、そういう点から補正事業として上げさせていただいたということでございまして。

○議長（佐藤 孝君） 中川直美君。

○18番（中川直美君） 確認ですが、当然補助要綱とか、そういったものは完璧なものではできていないにしても、あらあらできているという理解でよろしいですね。

○議長（佐藤 孝君） 石田地域振興部長。

○地域振興部長（石田友紀君） 説明申し上げます。

現在のところ、あらあらのものを作成している途中でございまして。

○議長（佐藤 孝君） 金田淳一君。

○16番（金田淳一君） 同じ企業誘致・スタートアップ支援事業について伺います。

先ほどの市長の説明で大体分かりましたが、この予算書の中の2,000万円のところにモデル支援事業補助金という名前が書いてあります。今の説明で大体分かったわけですが、ですからこの補助率が非常に高いことにつながったのかなというふうに理解しているのですが、それでいいのか。

それから、先ほどの市長の説明ですと、来年度は違う形で国の財源に基づきというような話ですが、今年度実施した事業がうまく推移した場合に、来年度はこのソフト事業だけではなくて、ハード部分も含めて今後進出企業と地元企業が一体となった企業活動を進めていくという考え方なのか、そこについて説明してください。

○議長（佐藤 孝君） 渡辺市長。

○市長（渡辺竜五君） 佐渡市の単独費で行うということでございますので、今回上限枠は、補助事業の額自体は少なくしましたが、率については国のものと基本的に合わせていく形で配慮をしたということで率が高くなっているのが1点でございます。

継続につきましては、これは市の単独費は私どもモデル事業としてやりますが、国の事業とは全く関係ありませんので、これをステップにして次の事業、新たなことをやっていくということは全く問題ないというふうに考えておりますので、同じ事業を今年ソフト事業をやって来年ハード事業をやって大きな資金を動かすということで国費の対象になるということはもう十分あり得ると思いますので、そこはしっかりと事業目的と事業の中で判断をして国に上げていくという形になるだろうというふうに想定しております。

○議長（佐藤 孝君） 金田純一君。

○16番（金田淳一君） 地域のために役立つ仕事であるということで高率な支援というふうに理解しました。それは、佐渡市の企業単体でもそういうことをやっていただけるのであれば佐渡市としてもやっぱり何らかの支援はしなくてはならない部分ではあると思いますが、今回は進出企業の支援も含めてという形で今一緒にやってくださいという形なのですけれども、佐渡市単体の事業、佐渡市内の事業者の方が同様な考えを持った場合には今後どういうふうな考えにするのか説明いただけますか。

○議長（佐藤 孝君） 渡辺市長。

○市長（渡辺竜五君） 佐渡市の方が単独で今と違う方向で仕事をしたい場合、今国のほうの事業の横展開という部分で事業を行う場合、昔の二次創業とかそのお話をしていましたが、新たな事業展開で地域貢献にやるというのは、国のほうの事業費も昨年度からございます。ですから、これはあくまでもデジタル田園都市国家構想推進交付金の小さなモデル事業ということでそのルールを基本的に当てはめて行いますが、それ以外にも今国にはそういうふうに佐渡の企業が横展開する、佐渡の企業と企業が組んで横展開を始める、そういうところの支援事業も様々な形がございますので、また雇用を生む場合は離島のほうの交付金のほうの対象にも当然なりますので、様々な企画をいただければ我々としては最大限有利な仕組みを国または県、市の事業をしっかりと調査をした上で御提案してまいりたいと考えております。

○議長（佐藤 孝君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（佐藤 孝君） 質疑なしと認めます。

7 款商工費及び10 款教育費についての質疑を終結いたします。

以上で議案第48号 令和4年度佐渡市一般会計補正予算（第1号）についての質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております議案第48号については、お手元に配付してあります委員会付託表のとおり、総務文教常任委員会に付託いたします。

○議長（佐藤 孝君） 以上で本日の日程は全て終了いたしました。

次回の会議は、明日28日午前10時から、採決及び議会の人事を行います。

本日は、これにて散会いたします。

午前10時39分 散会